

(別添様式 1)

平成 29 年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

鳥取県建設業青年部交流会

事業等の名称	園児を対象とした建設機械乗車体験 「建設機械・資材等を見てさわって体験しよう」
1. 実施時期 平成 29 年 10 月 10 日(火) 2. 実施場所 米子市両三柳 米子幼稚園 3. 対象者（参加見込又は参加者数） 園児、教職員 100 名 4. 共催・単独等の開催状況 鳥取県西部地区会員での単独開催 5. 事業等の内容 高所作業車、バックホウの乗車体験 砂場の砂補充、整地 6. 期待される効果（実施結果：効果） 建設機械に触れて楽しい実感が心に残り、少しでも建設業に魅力を感じていただければよいと願う。子供たちの喜ぶ様子は携わる会員メンバーにも微笑ましさを与えてくれ、楽しかった思い出が建設業に就業してくれることを願います。 7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案 比較的新車に近い機種を用意することと、それに伴うリース料、回送費は必ず発生する財政面の検討。これからも継続するうえで行政の助成援助は必要であります。 8. その他 すぐさま結果に結びつく事柄ではありませんが、先生方のアンケートを拝見しますと、皆さん好意的に捉えていただき事業を実施する意義を感じております。（アンケート抜粋：別紙）	

注 1：提出資料は電子データとしてください。

注 2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

『建設機械・資材を見てさわって体験してみよう』 教職員へのアンケート抜粋

1. イベントの感想

- (1) 子どもたちにとっては(大人にとっても...でしたが)すべてが楽しい経験となったようで興味津々でしたし、イベント後も「楽しかった!」「大人になっても乗りたい!」という声がたくさん聴かれました。また皆さんが子供たちに対して丁寧にやさしくかかわってくださったので、乗車体験もより楽しめたのだと思います。小さいころに体験したことは大人が思うより子供たちの心に残っているものですし、幼児期のうちに様々な体験をし、様々なことに興味を持てるようにしていくことが大切だと思いますので良いイベントだと思います。
- (2) 高所作業車などの体験はもちろんですが、皆さんが笑顔で子どもたちとかかわってくださったのでとてもよかったと思います。
- (3) 建設機械は特に男の子に人気で、いろいろなものの名前を知っていて教えてくれる子が多い。
今回は高所作業車に乗せてもらったり年長組はバックホーの運転までさせてもらったりして有意義なひとときになったと思っている。
- (4) 普段近くでじっくり見る機会がなかったので大人も見えていて楽しかった。高所作業車に乗り遠くまで見ることができ、子どもたちもとても喜んでいました。また「トミカ」などで車両に元々興味を持っていた子供はもちろん、女の子も興味をもって集中して参加していた。
- (5) 高所作業車やショベルカーに乗せていただきとても大喜びでした。また、こんな大きな(高い)車に乗って仕事をしていることに驚いた様子で「すごいね〜!」と憧れを持つ子もいました。とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

2. 土木のイメージの変化等

- (1) 建設機械をまるで手足のように自在に扱われる作業員の方の姿を見てカッコいいと思った子が多かった。子供の夢はいろいろと変わるが建設関係の仕事についてやってみたいといった子が何人もいた。このような仕事について知らない子はいてもマイナスイメージを持つ子はいなかったように思う。優しいおじさんのカッコいい姿を見ていいイメージを持つようになった子が殆どだと思う。
- (2) 砂場の砂の搬入場面を目の前で見たので、子ども達も砂を枠の外に出さず大事に使うようになった。やはり実際に作業を行うところを見ていたので、「工事のおじさんのおかげ」という意識が出てきたのだと思う。ショベルカーや高所作業車など、園に出向いてイベントをしていただくイメージがなかったのが今回のイベントで親近感がわいた。
- (3) 子どもたちは土木の仕事のイメージが湧かなかったが、イベントの後には「この仕事は米子の町を作っているんだね!!」と土木の仕事に興味を持ち、将来の夢にする子も多くみられました!
- (4) 子どもたちも機械類や建設の仕事に興味を持つとともに、より身近に感じられたのではないかと思います。貴重な体験をありがとうございました。
- (5) 子ども達も機械としての様々な作業車のことに興味はあったと思いますが、そこにかかわる「人とのふれあい」を通じて、実際に作業をしている方々に対する良いイメージが出来たのではないかと思います。安全に気を配っておられることを実感しました。

平成 29 年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組概要

機関・団体等の名称

鳥取県建設業青年部交流会

事業等の名称	① アスファルト舗装の出前講座及び施工体験実習
1. 実施時期 出前講座 平成 29 年 6 月 13 日 施工体験実習 平成 29 年 6 月 15 日 2. 実施場所 倉吉農業高等学校 3. 対象者（参加見込又は参加者数） 倉吉農業高等学校環境課 3 年生 15 名 鳥取県人材育成センター土木システム科 5 名 4. 共催・単独等の状況 鳥取県中部建設業協会と共催（鳥取県建設業魅力発信事業費補助金の活用） 5. 事業等の内容 学校内のアスファルト舗装未整備区間を技術者と舗装作業員、高等学校生徒、人材育成センター訓練生とで施工体験を実施した。この事業は H28 年度からおこなっているもので、今回で 2 回目となる。新たな取組みとして事前に「舗装とは！」という題名で出前講座をし、アスファルト舗装の構成、施工順序、使用機械、丁張の意味とかけ方について説明した。また、建設業協会青年部の土木技術者とともに測量・設計をし、丁張をかけた。施工当日生徒には掘削・路盤・表層の人力施工部分の施工体験をしてもらい、機械施工（アスファルトフィニッシャー）の箇所については舗装作業員の説明を受けながら実際の作業を見てもらった。当日は協会青年部 7 名、県及び人材育成センター職員 4 名、舗装作業員 6 人が事業に携わった。 6. 期待される効果（実施結果：効果） ・ 実際に設計から施工まで生徒が関わることで舗装工事の流れが理解しやすかった事と、目に見えてアスファルト舗装が出来上がっていく事で物づくりの達成感を味わえたと思う。また、真剣に無駄なく働く舗装作業員を見る事により、働くとはどういう事かを感じてもらえたのではないだろうか。 ・ 高等学校生徒と人材育成センター訓練生が共同で実習をおこなう事の相乗効果を期待したい。 7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案 ・ 今年度は高等学校から一部予算をつけて頂いた。	



倉農で舗装実習 中部建協青年部

建設業魅力発信
事業を利用して

倉吉市大谷の県立倉吉農業高校で16日、地球環境コース3年生15人と県立西条工業高校成センター倉吉校土木システム科3人を対象にした、アスファルト舗装の施工体験実習が行われた。県中部建設業協会青年部(井本真雄会長)が、建設業魅力発信事業を利用して実施しているもので、今年で3年目になる。

倉吉農高では、舗装の設計までは学習するが、実際に体験する機会はなかった。そこで中部建設業協会が、実際の施工体験を通じて、建設業の魅力を感じてもらうと体験実習を始めた。今年度から育成校の生徒も参加することになった。

今年度の実習では、校内の未舗装区画、野菜園の通路、延長約35

メートル、幅員3メートル、面積約120平方メートルを舗装。青年部の会費が指導員共益組合補助金、ローラーやフィニッシャーなどの舗装機を提供し、舗装した昨年度に体験実習し、建設業に就職した農高OB2人も参加し、生徒にアドバイスを与えていた。

気温30度を超す晴天に恵まれ、午前中に掘削・路盤工まで実施。午後から表層を舗装し、順調に完成した。

北浜中の2年生が、国交省で職場体験事務所は、湯梨浜町立北浜中学校で実施している職場体験「わくわく北浜」で、同校生徒の職場体験を受け入れた。「わくわく北浜」は、北浜中学校2年生が色々な事業所を回り、実際の仕事を体験する取り組み。国交省の職場体験